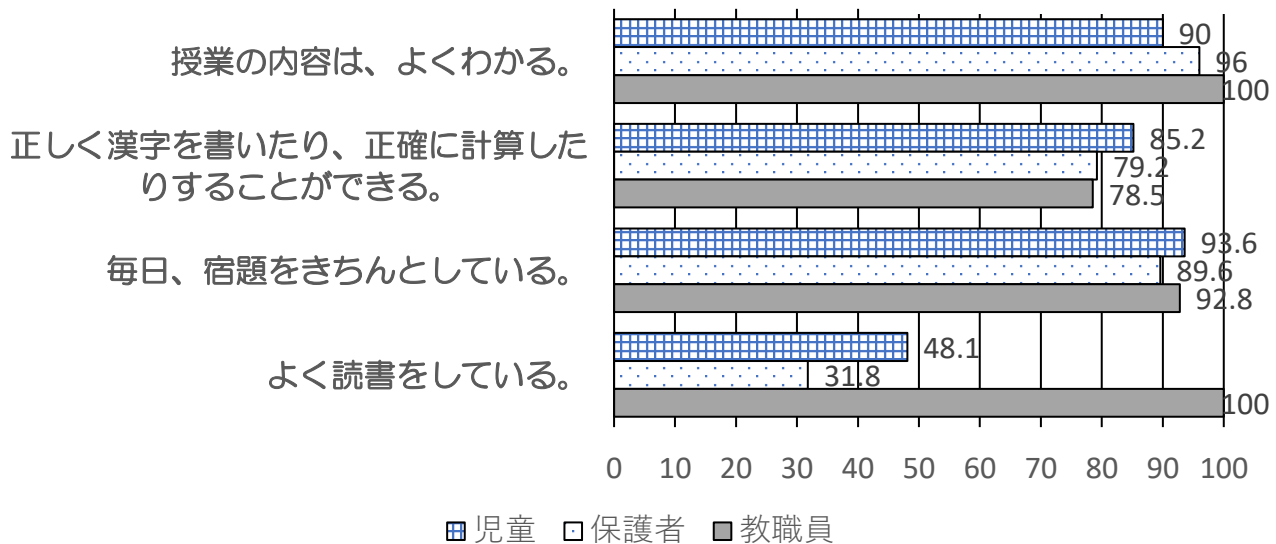


子どもの学習について

アンケートの「よくあてはまる」「大体あてはまる」の肯定的な回答の割合を%で示している。



【結果・考察】

○児童の授業内容への理解度は9割、保護者ともに肯定的である。教職員の丁寧な指導が子供たちに届いている。授業改善に努め、今後も、ホームページ等を通じて日々の授業の様子を伝えていく。

●「正しく漢字を書いたり、正確に計算をしたりすることができる。」では、約8割弱にとどまっている。学習の定着に不安を感じている児童の実態に応じて継続した指導を行っていく。

●読書の項目では、教職員の日々の指導実践と児童の習慣化に差が見られる。家庭での読書の確保や学校での読書指導の工夫が必要である。

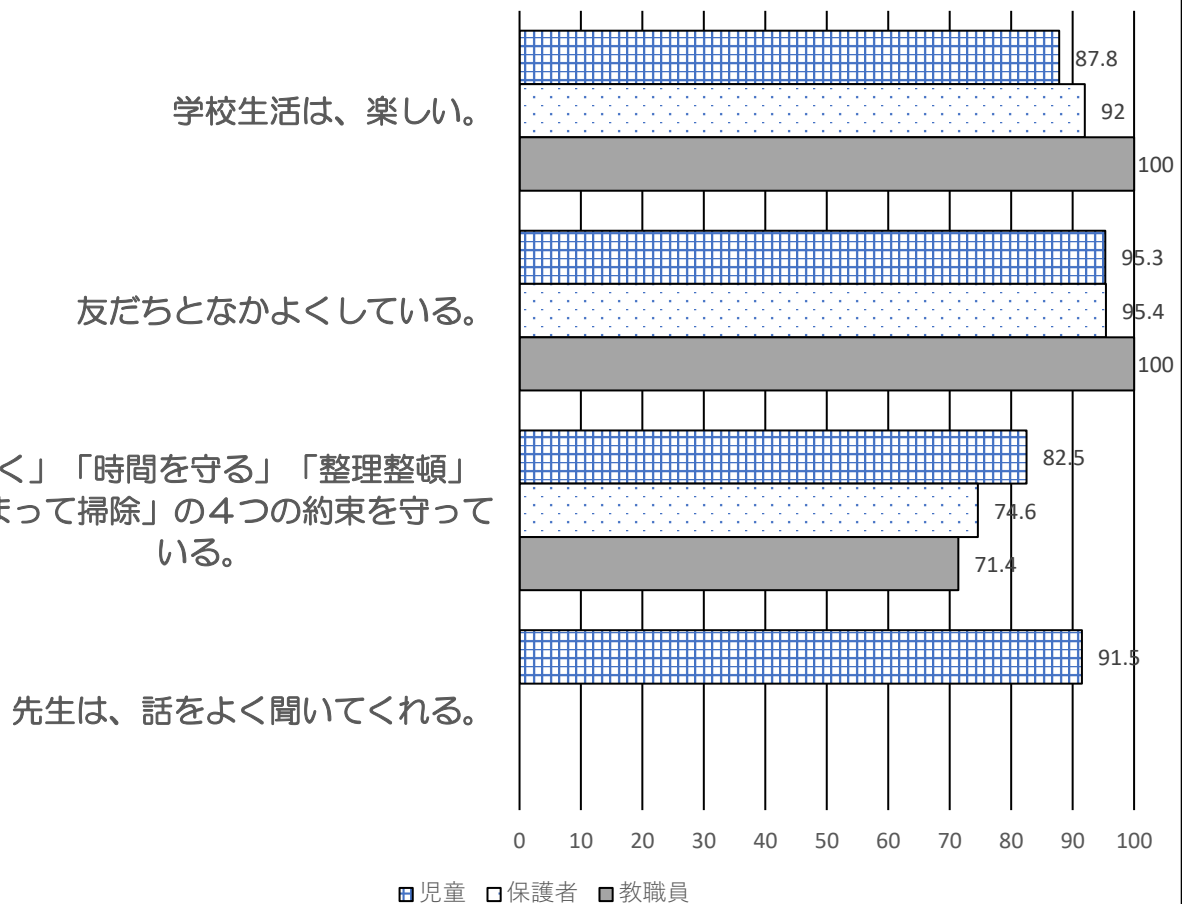
A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

【「子どもの学習」についての学校運営協議会の方のご意見】

- ・よく読書をしているの解釈の違いがあり、評価が難しい。少し設問を変えると相違がなくなる。
- ・タブレットを使用しての学習が増えているので、文字を鉛筆で書くことが減り、丁寧な文字を書くことや筆順などが身に付かないかもしれないと心配している。しかし、1年生の「知らせたいな、みせたいな」の学習での学校行事についての文章は、丁寧に文字が書かれていた。担任の先生のご指導が良くわかる。また、「てがみでしらせよう」の学習では、子供の思いの詰まった手紙をいただき、成長が感じられとても嬉しかった。
- ・漢字、計算、宿題に関して3者の評価がほぼ同じであること、8割キープされていることは良いことだと思う。
- ・子供たちの学習内容がわかるように、日々努力されている様子がうかがえる。表面上だけでなく、一人一人の定着を今後も把握してほしいと願っている。
- ・読書については、活字離れが進む中、家庭では、短編小説など親子で読める本を楽しむなど努力してほしい。
- ・スマホの規制も必要
- ・読書の重要性はよく言われるが、とにかく読書の習慣をつけるように工夫してほしい。家庭での養育が一番だが、月1回は読書感想文、または、読書リストの提出等も習慣化の助けにならないか。
- ・よく読書をしているの項目について教職員と児童や保護者の評価の違いから家庭間ではあまり読書をしていない様子がうかがえる。

子どもの生活について

アンケートの「よくあてはまる」「大体あてはまる」の肯定的な回答の割合を%で示している。



【結果・考察】

○児童の約9割が学校生活を楽しいと感じており、先生が話を聞いてくれることも教師と児童の信頼関係につながっている。保護者も肯定的な回答である。概ね児童が安全・安心に学校生活を送れていることがわかる。保護者の思いを大事に受け止め、安心して学校生活に送り出せるよう、今後の教育活動に取り組んでいく。

○「友だちとなかよくしている」では、昨年度より肯定的な回答児童が増えている。

いじめ防止に向け絆アンケートや児童観察を大切にしながら児童理解を行っていく。

●「4つの約束」では、守れている児童は認め褒めていく。意識統一を大切に、具体例を挙げながら日々の生活規律の指導を積み重ねていく。

A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

【「子どもの生活」についての学校運営協議会の方のご意見】

- ・三者（児童、保護者、教職員）の乖離が少ない。
- ・困ったときに相談できる、助けてくれる存在として信頼できる友達や先生を見つけ、充実した学校生活を送ってほしいと願う。
- ・コミュニケーションが活発に取れているという望ましい結果が得られており、今後も持続してほしい。
- ・このアンケート結果では、子どもたちは楽しく学校生活を送れているように思う。
- ・まとまりのある学校。学校が楽しい項目が高い評価を得ているのが素晴らしい。
- ・学校が楽しく、また、友達と仲良くできていると（感じている）ことが一番大切であり、良いことだと思う。
- ・順調だと思う。ただ「楽しい」と答えなかった1割の子供が何を考えているのか気になる。
- ・子供の生活全体に良好だと感じる。

学校の取組について

アンケートの「よくあてはまる」「大体あてはまる」の肯定的な回答の割合を%で示している。

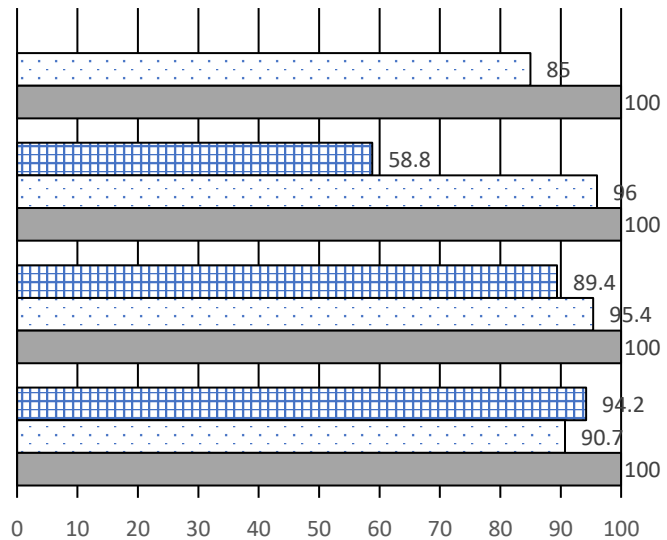
学校は、いじめや不登校等の問題について、早期解決に努めている。

エコ回収やコミュニティ・スクール行事活動を進んで行っている。

学校で体力づくりを進んで行っている。

学校で、タブレットを使って、進んで学習をしている。

■ 児童 ■ 保護者 ■ 教職員



【結果・考察】

○「エコ回収やコミュニティ・スクール行事活動を進んで行っている」では、保護者、教職員ともに肯定的な回答の割合が高い。地域と連携しながらの児童の行事や活動がよく機能している。

○タブレットの使用については、児童が意欲的に取り組み、GIGAスクール構想の端末活用が定着している。

●いじめや不登校等の早期問題解決への取組については、教職員と保護者の回答に差が見られる。相談して解決するまでの様子が見えにくいことがないよう、生徒指導上の問題をその日のうちに学年主任、生徒指導主事への相談・連絡を行うなど組織として解決できるようにしていく。アフターケアの強化に取り組むようにする。

●「エコ回収やコミュニティ・スクール行事活動を進んで行っている」では、児童と保護者・教職員で差が見られる。本校は地域の方のご協力により、様々な貴重な体験をさせていただいている。児童が進んで活動に取り組めるような場が設定できると良い。

A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

【「学校の取組」についての学校運営協議会の方のご意見】

・「コミュニティスクール行事」という設問の意味を理解して回答したのかが気になる。名称の浸透理解度。

・保護者、地域対応、児童一人一人への対応など日頃から負担が大きいと思う。いじめや不登校等の問題について、より組織的に対応に取り組んでほしい。

・学校、地域、体力づくり、ICT化とバランスが取れた取組がされていると思う。

・子供たちの生活が保護者の考え方などにより多様化している。今後も一人一人に寄り添い、いじめ、不登校の問題について、積極的に取り組んでほしい。保護者だけでは孤独。

・児童、学校、地域が連帯化、一体化していてとても良い。顔の見える関係がより一層充実してできるよう、今後も努力したい。

・設問2は、設問内容の理解度に差がある。もう少し分解したほうが良いのでは。

・教職員の評価に対して、児童の評価が若干低い、それでも高評価を得ている。昼休みに縄跳びを行っている姿がよく見える。

家庭・地域との連携について

アンケートの「よくあてはまる」「大体あてはまる」の肯定的な回答の割合を%で示している。

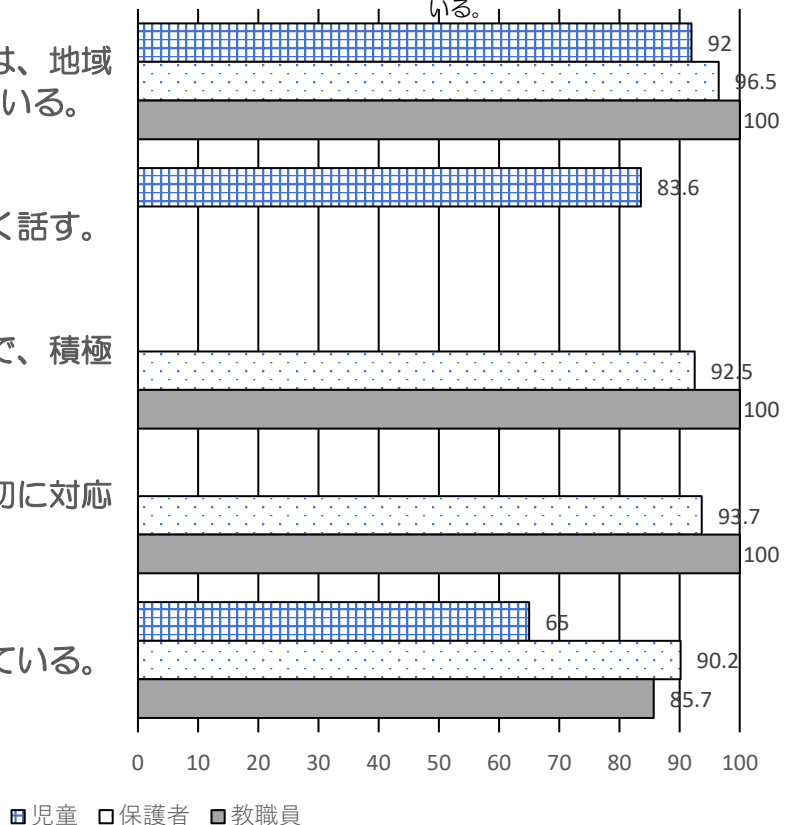
コミュニティ・スクール行事では、地域の人にきちんとあいさつをしている。

家では、学校であったことをよく話す。

学校は便りやホームページなどで、積極的に情報公開している。

学校は、保護者からの相談に適切に対応している。

地域の行事に参加している。



【結果・考察】

- コミュニティ・スクール行事活動では、学校、家庭、地域が連携し前向きに児童の教育活動に取り組む環境が整っている。これからも児童の成長のために連携を大切にしていく。
- 開かれた学校づくりとして、「情報公開」「相談対応」の項目に肯定的な回答である。今後も、授業や学校の様子についてたよりやホームページ等で発信していくことで、学校の様子への理解を高め信頼へとつなげていくようにする。
- 地域の行事やPTA活動の具体的な内容について、知ってもらうことが行事への参加につながっていくと思われるので、ホームページ等で発信していく必要がある。

A…順調 B…おおむね順調 C…あまり順調ではない D…順調ではない

【「家庭と地域との連携」についての学校運営協議会の方のご意見】

- ・PTAとしての地域の行事への参加（児童）があがるとよい。
- ・垣生公民館を中心に地域活動が活発で、コミュニティ・スクールも連携が取れており、素晴らしいと思う。
- ・垣生小学校の魅力を適切に発信してほしい。
- ・学校と地域・家族の連携がうまく取れていると思う。
- ・地域のつながりはとても良いと思う。大変だろうが、今後も続けてほしい。
- ・地域行事への参加は、その楽しさが児童に伝わってないのかも。検討の余地あり。
- ・地域の行事に参加している項では、児童の参加が少ないのは児童が多忙なことと地域行事も少なくなっているのではないだろうか。
- ・連携。情報公開等々うまくいっているし、運営されていると思う。
- ・家庭との連携がうまく取れている様子がわかった。